

プラハの大規模集合住宅団地 イジュニームニェストにおける公共空間の 造形芸術作品の現存状況に関する研究

田中 由乃¹

¹正会員 博士(工学) 東京工業大学 環境・社会理工学院 土木・環境工学系
(〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1 W9-93, E-mail:tanaka.y.cp@m.titech.ac.jp)

イジュニームニェストは、チェコ共和国プラハ市の中で最大規模の集合住宅団地の一つであり、その公共空間には、社会主義時代に設置された造形芸術作品が複数現存している。本論文では、主に社会主義体制時の開発計画に関わる文書と現地調査によって、公共空間に設置された造形芸術作品の設置意図及び造形芸術の現状の分析を行った。その結果、社会主義体制下の開発時、イジュニームニェストはテーマを持った地域区分によるグループ分けが行われ、各グループのテーマに基づいた造形芸術作品の設置が計画されていたことが分かった。また、現存が確認できる造形芸術作品の数はグループによって異なっていたことから、作品の撤去・保存の判断が、グループのテーマと関係している可能性が考えられる。

キーワード: 公共空間, 造形芸術, 住宅団地, 社会主義, プラハ

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

チェコ共和国は、社会主義時代、建築物を新築する際に、その建設費の一部を芸術作品に充てることが法律で定められており、国が新たに建築物を建設する際には、その合計費用の1%から、時には4%までが、芸術作品のために使用された¹⁾。その後、1989年の政治体制の転換により、Karousら(2013)によれば、「多くのイデオロギー的作品-多くは特定の政治的リーダーのポートレート-は撤去された。しかし、作品の多くは、殆どが、明らかな理由があるというよりは、注意を向けられなかったという理由で、もとの場所に残された」²⁾ことが分かっている。

チェコ共和国各地において社会主義体制下に計画された集合住宅団地にも、上記の様な理由から設置されたとみられる造形芸術作品が多数現存している。しかし、具体的な地域を対象とした地域開発計画と造形芸術作品との関係性や、造形芸術作品の現存状況は、十分に明らかにされているとは言い難く、今後の公共空間再生の中で、その存在理由を顧みられることなく、撤去されていく可能性が考えられる。そこで本論文では、チェコ共和国プラハ市において社会主義時代に開発された集合住宅団地イジュニームニェスト(Jižní Město, 「南の町」の意、以下JM)を対象に、集合住宅団地開発時における団地内の公共空間計画と造形芸術作品設置の意図及び現存する

造形芸術作品の特徴について明らかにすることを目的とする。

(2) 調査の方法

JMは、プラハ市の中で最大規模の集合住宅団地の一つであり、その公共空間には、社会主義時代に設置された造形芸術作品が複数現存している。JMにはJM I, IIの2つのエリアが存在し、Iは1971-85年、IIは1981-92年にかけて、主な開発が行われた。当時の開発資料の中でも、芸術に関わる総合開発計画については、現在プラハ市のアーカイブ資料として、JM I開発時のもののみが確認出来ている。そこで本論文では、まず、アーカイブに保管されていた資料を用いて、公共空間計画と造形芸術作品設置の意図を明らかにする。次に、文献及び現地調査から特定したJM I内に現存する造形芸術作品を、開発当初の作品設置計画と照らし合わせることによって、現存する造形芸術作品の特徴について考察を行う。

2. 社会主義体制下の公共空間と造形芸術作品設置計画

(1) JM I全体の空間計画に関するコンセプト

2015年8月にIPR PRAHA(Institut plánování a rozvoje hl. m. Prahy/Prague Institute of Planning and Development)を訪問し、イジュニームニェスト開発計画に関する現存する資料の内容を整理した。ここでは、そ

の中でも、JM I開発に関連する総合的な芸術計画書である「Generel výtvarného řešení Jižního Města v Praze (1976)³⁾ (The general art solution of JM in Prague)」を用いて、開発当初の公共空間計画と造形芸術作品の関係性を明らかにする。

「Generel výtvarného řešení Jižního Města v Praze」によれば、JMは、「単なる住戸のまとまりではなく、人々が”ホーム”と感じられる環境、そして人々が住むだけでなく、暮らすために帰属する場所」として計画され、「それぞれのデザインは、個別の建物や区画のためだけでなく、JM全体のためにデザインされる必要がある。」⁴⁾とあり、JM全体を総合的な視点からまとまりのある空間にしようとしていたことが分かる。また、造形芸術作品のコンセプトとして、まちの中心の空間はもっとも総合的な社会主義の原理が芸術的に表現され、各地域の中心部と公共空間は社会主義社会の個々の側面を具体化する作品になる、とも述べられている。

(2) JM Iの各地域に対するコンセプト

「Generel výtvarného řešení Jižního Města v Praze」では、JM Iを5つの地域に分けた上で、それぞれの開発計画のコンセプト文書及び芸術作品リスト、計画図(図-1)が示されている。また、現在のJM Iとの対応を図-2に示す。以下の各グループに関する記述は「Generel výtvarného řešení Jižního Města v Praze」をもとにまとめたものである。

a) JM Iの中心部-グループ5

まず第一に言及されていたのは、まちの中心部と位置付けられていたグループ5であり、地下鉄Opatov駅や中央公園を含むエリアである。ここでの芸術作品は、社会主義の主要な特徴として、人種や人間の平等、男女平等、新しい生産的關係、働く権利、教育、休息等の表現が計画された。広場は「社会主義広場」と名付けられ、まちの中心部に連結する中央公園は、視覚的要素とマテリアルの選択によって心地よいチェコのランドスケープの要素を表現しなければならないとして、名前は「チェコ公園」とされ、チェコという以前から続く土地性と社会主義という新たな思想性を組み込んだ空間として提案されていた⁵⁾。

b) Háje-グループ1

グループ1のコンセプトは人間の労働、能力、労働のヒロイズムであり、このコンセプトに関連して、地下鉄駅の名前は「コスモナウト(宇宙飛行士)」と命名された(現在の駅名はHáje)。宇宙飛行士の宇宙での過酷な仕事は、責任ある人間の仕事の連鎖に結びついており、宇宙飛行士の仕事は20世紀の科学・技術的革新のシンボルであり、また一方で人類の英雄的行為でもある、とされた。他の作品は、それらの設置場所と調和し、労働者、

小作農、医者、芸術家などの知的労働者の仕事への敬意を表現し、人々の市民的活動、献身、労働のヒロイズムを表現するものとして、グループ1の中心部は「労働の広場」と名付けられた⁶⁾。

c) Opatov-グループ2

グループ2は、国際主義、労働者の国際的結束、人類間の友情のアイデアによって特徴づけられるとされ、第二次世界大戦の際に、ソ連は自身の満足と自由のためだけでなく、我々を含む他の国の自由のためにも戦った、ということから、グループ2の中心部は「国家の友人の広場」と名付けられた⁷⁾。

d) Litochleby と Chodov-グループ3・4

これらのグループはその都市構造、内部連結、グループ4の小ささから、全体で一つのイデオロギー、人類の平和を表現するとされた。なお、グループ4は面積を見ると大きい、その大部分はJM I開発以前からある住宅地が占めているため(図-2参照)、JM Iの開発対象地域としては「小さい」ものとして扱われていると考えられる。このグループでは、平和な人生と不可分に結びついている、若さと喜びの感情を創造する芸術作品が望まれた。グループ3では、若さがより強調され、グループ4では喜びが強調された。作品は子どもの世界、子どもの遊び、子どもたちへの愛、母性、家族生活等の主題が検討され、若さは感情、行動、美、愛などの喜びを表現するものとされた。グループ3は「若さの広場」、グループ4は「喜びの広場」と命名された⁸⁾。

(3) JM Iに設置が計画された造形芸術作品

表-1の造形芸術作品リストを見ると、作品の種類としては、彫刻の他にレリーフや噴水、胸像、旗などのバリエーションが見られ、設置場所はまちの中心部である広場だけでなく、学校や病院、駅などの公共施設の前に計画されている。このことから、各グループの広場に与えられたテーマは、グループ内の特定の広場空間だけに適用されたものではなく、グループ内の空間全体に共通するテーマであることが分かる。さらに、病院の前には医者の仕事に関係したレリーフ(グループ1-C)、映画館の前には映像作家の仕事に関する彫刻(グループ1-D)、学校の前には子どもをテーマにした作品(グループ1-I、グループ2-J、グループ2-K)など、建築物の用途との明らかな関連が見られるものもある。

3. 現存する造形芸術作品

(1) 調査の方法

社会主義時代に計画された造形芸術作品が、JM I内のどこに現存しているのかを明らかにするため、参考文献1において確認される造形芸術作品の中から、JM I内に

あるもの9作品（うち1作品は2010年に撤去）を抽出し、それらの位置情報を現在の地図上にプロットした。参考文献1に掲載されている芸術作品については、芸術作品の総括的なリストが無かったため、mushroom picking technique（同様の芸術作品がある場所に対する長年の

直感と知識をもとに探索を行う方式）を使用した、と説明されている⁹。また、上記の文献から得られた情報に加えて、筆者がこれまでの現地訪問時に発見した造形芸術作品を補足し、記録した。

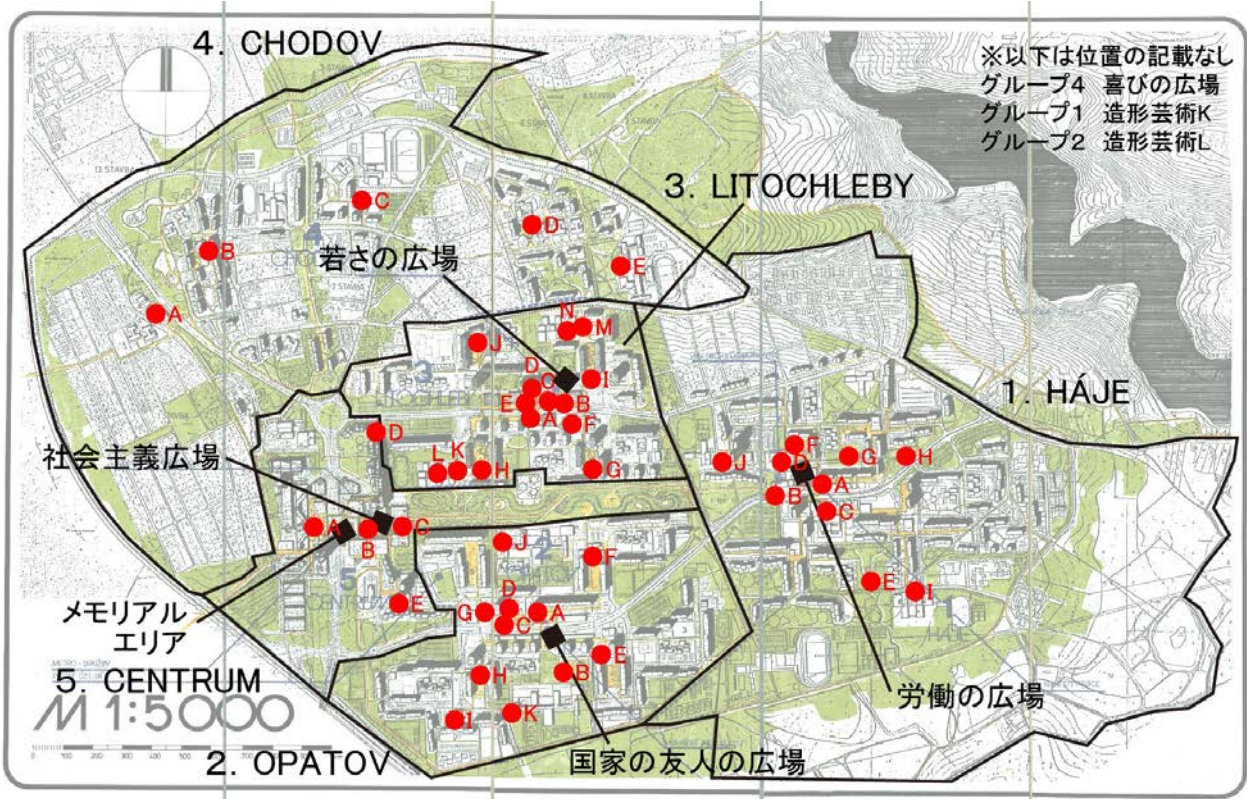


図-1 JM I内のグループ境界、広場の位置、造形芸術作品の設置計画（参考文献3 付属の図に著者加筆）

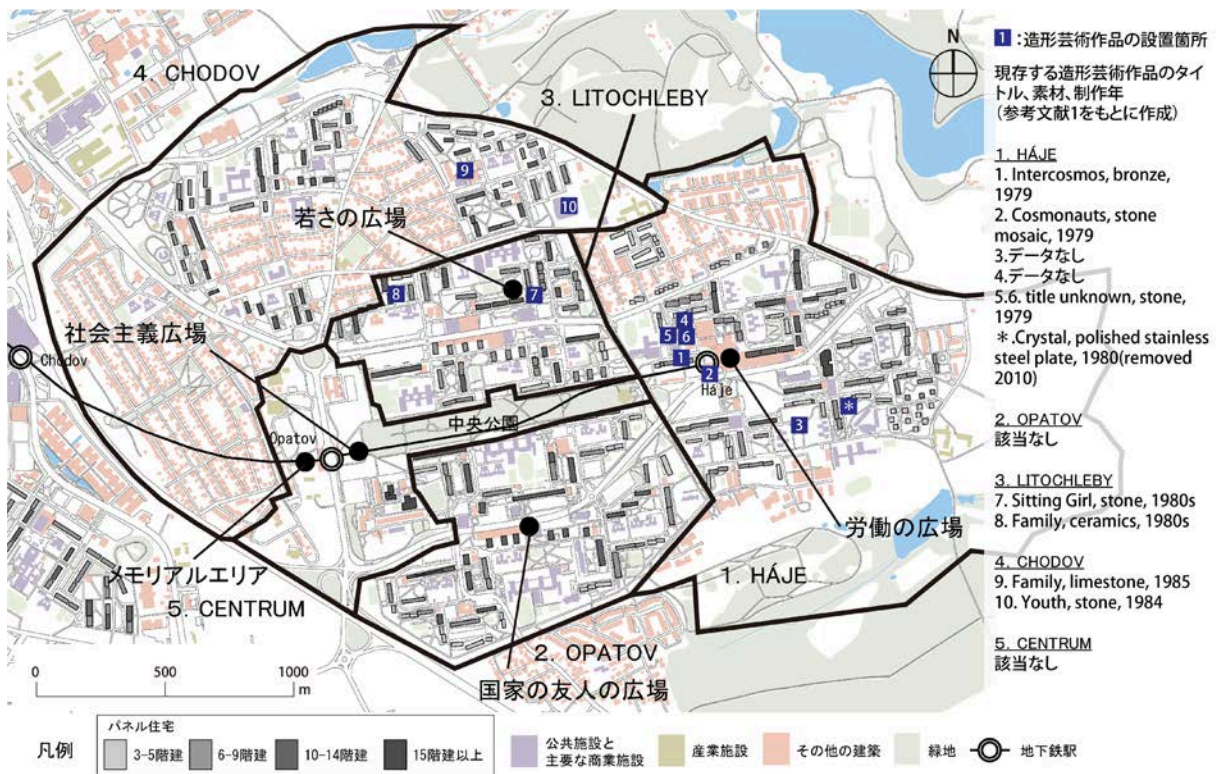


図-2 JM Iの開発当初のエリア分けと現在の造形芸術作品の配置

(2) 現存する造形芸術作品と計画リストの対応

現存が確認される造形芸術作品 (図-3) の位置を図-2に示す。表-1と図-2から、リスト上に計画されており、かつ現存が確認できる造形芸術作品は、グループ1で11作品中3(対応関係が不明瞭なものを含めると6)、グループ2で11作品中0、グループ3で14作品中1(対応関係が不明瞭なものを含めると2)、グループ4で5作品中2、グループ5で5作品中0となっており、社会主義時代に計画さ

れた造形芸術作品の多くは実現しなかったか、既に撤去されている可能性が考えられる。また、計画図の中の建物配置には現在とは一致しない箇所があること(特にグループ5については殆ど実現していない)、現存する造形芸術作品の中には、芸術作品リストの計画と一致しないものがあることから、開発が進む中で造形芸術作品の設置計画にも変更があったと考えられる。

表-1 JM Iで計画されていた造形芸術作品リスト
(参考文献3をもとに筆者作成)

	作品の種類	コンセプト	設置場所	素材
Hage(グループ1)労働の広場	A 主要なイデオロギーを表現する生物(figural/人間または動物)の彫刻	労働は人間を変える	地下鉄入り口の広場の歩行者地域の中心	金属
	B レリーフ(浮き彫り細工)-モザイク	宇宙を征服する	公園方向の地下鉄ホールの前または中	石、ガラス
	C 背の高いレリーフ	健康(医者の仕事)	総合病院の前	コンクリート
	D 水平的な彫刻 地域のテーマを含む	(映像作家の仕事)	映画館の前	金属、石
	E アート彫刻	工芸	第2住宅区の中心部	金属、木
	F アート彫刻	労働と休息	第4住宅区の中心部	金属
	G アート彫刻	手	第4住宅区の中心部	金属、木
	H アート彫刻	科学(労働意識)	第3住宅区の中心部	金属
	I 金属彫刻	子ども時代	建築学校の前	金属
	J モザイクレリーフ	若さ	学校の前	石
	K 汎用オブジェクト オブジェクトをベースにしたレリーフ	生産プロセスのダイナミクス	KUPA(建築の名称)の上部	コンクリート
Opakov(グループ2)国家の友人の広場	A 生物(人間または動物)の彫刻	国際的友好関係	中心部	金属
	B 水面を持つ生物の彫刻	-	公園の中心部	石、コンクリート
	C レリーフ(浮き彫り細工)	若さの勝利	中心部	合成樹脂
	D 水面	エレメント	中心部	コンクリート(セラミック)
	E 自由彫刻	芸術作品の複合物の一部-人々の間の友情	第1住宅区の高層オブジェクトの前	金属
	F レリーフ	国際貿易	第4住宅区境界の店舗の前	コンクリート
	H 既存の芸術作品	女性たちの友情	第5住宅区境界	コンクリート
	I 自由彫刻	国際貿易	地域の商業中心部	金属
	J 学校の入り口の前の彫刻	子どもたちの友情	建築学校の前	金属
	K 学校の入り口のレリーフ	子どもたちと世界	建築学校の前	コンクリート
	L 赤軍の戦没者のメモリアルのための彫刻と総合芸術	解放者への感謝	赤軍の墓地	金属、石、木
Loshchely(グループ3)若さの広場	A 自由彫刻	平和な世界	グループの中心部	金属
	B 噴水	-	-	-
	C 彫刻	平和の中の人生	-	-
	D アートエレメント	-	-	-
	E レリーフ	-	-	-
	F 噴水	若さと健康	健康関係中心部の前	石、金属
	G 彫刻	鳩	第2住宅区の前	石
	H 無生物彫刻	平和-生命の樹	地域の中心部	金属
	I 彫刻的壁	花々	地域の中心部	コンクリート
	J 金属彫刻	母と子	地域の中心部	金属
	K 平和の代弁者の胸像	-	学校の前	金属
	L アートアトリウム	"K"のマークとイデオロギー的にリンクするもの	学校のアトリウム	セラミック、舗装
	M 平和労働者の肖像画	-	学校の前	金属
	N アートアトリウム	"M"のマークとイデオロギー的にリンクするもの	学校のアトリウム	コンクリート、石
Chodov(グループ4)喜びの広場	A カラフルな旗	-	レストラン	ガラス、金属
	B 二色の旗	-	-	-
	C セラミック彫刻	花々	地域の商業中心部	セラミック
	D 金属彫刻	家族	地域の商業中心部	金属
	E 彫刻	太陽によって計られる生活(日時計)	ギムナジウムのエントランスホール	石、(コンクリート)
Centrum(グループ5)社会主義広場	A 記念碑的合成樹脂作品 平面、合成樹脂、光と音のポリフォニー	社会主義の勝利	社会主義広場	金属、コンクリート、モザイク
	B 東の広場の壁の合成樹脂デザイン	生命	社会主義広場	セラミック
	C 自由彫刻	Vitava川とLabe川	公園の入り口	石、水
	D 自由彫刻	生命の螺旋	住宅地域への入り口	金属
	E フレスコ画	勝利の方向	KUPA(建築の名称)のバルテールの壁	フレスコ

グループ1 (労働)



1
表1のA



2
表1のB



3
表1のE



4
表1との対応不明



5
表1との対応不明



6
表1との対応不明

グループ2 (国家の友人)
該当なし

グループ3 (若さ)



7
表1の【I】



8
表1との対応不明

グループ3・4 (人類の平和)

グループ4 (喜び)



9
表1のD



10
表1の【E】

グループ5 (社会主義)
該当なし

【 】は位置情報は一致するが、それ以外の特徴が表1とは大きく異なるもの

図-3 現存する造形芸術作品
(写真は全て筆者撮影, 2019)

4. 得られた知見と今後の課題

アーカイブに保管されていた文書及び図面資料「Generel výtvarného řešení Jižního Města v Praze」より、社会主義時代のJM I開発時における造形芸術作品を含む空間計画は、JM全体を一つのまとまりとした上で、JM I内を5つのグループに分け、それぞれに大きなテーマが設定されていた。更に、各グループ内には、テーマに基づいた名前が付けられた広場及び芸術作品群が計画されていた。また、現在その存在が確認されている造形芸術作品と、参考文献3で言及されている造形芸術作品の設置計画を確認すると、現存が確認できるのは労働、若さ、喜びをテーマとしたグループ内に限られており、国家の友人及び社会主義をテーマにしたグループ2,5には造形芸術作品の存在が確認できていない。現存が確認できない理由としては、計画されたが結局設置されなかった、設置されたが撤去された、現存するが発見されていない、などが考えられる。特に、グループ5については建築物自体が建設されないまま現在に至っているため、建築物の建設費の数%を芸術作品に充てるという条件の下では、造形芸術作品も作成されなかった可能性が高いと考えられる。また、「1.はじめに」で既に述べたが、「多くのイデオロギ-的作品-多くは特定の政治的リーダーのポートレートは撤去された。」という点については、表-1を見る限りでは、グループ2,5の芸術作品のコンセプト全てに強い政治色が見られるわけではないが、各グループテーマは社会主義やソ連等の他の社会主義国家と直接的に結びついていることから、政治色の強い造形芸術作品として既に撤去された可能性も考えられる。これらのことから、政治色の強い造形芸術作品は結果として現存しない一方で、現在でも普遍的に受け入れられるテーマであれば、今後も造形芸術作品として、公共空間の中で受容、再評価されていく可能性が考えられる。

参考文献1では造形芸術作品のリストが無く、直感と知識による探索調査が行われたことが述べられている。今後、造形芸術作品計画リストをもとに現地調査を行い、リストに掲載された彫刻及びリスト外の彫刻の存在の有無について調査を行うことで、社会主義時代に計画された造形芸術作品の現存状況と各グループ内での分布の違いについて、更に詳細を明らかにしていきたい。

謝辞：本研究は学術振興会による研究助成を受けて行われた研究の一部です。感謝申し上げます。

参考文献

- 1) Pavel Karous ed., "Aliens and Herons: A Guide to Fine Art in the Public Space in the Era of Normalisation in Czechoslovakia (1968-1989)", Nakladatelství Arbor Vitae, p.14, 2013

- 2) 参考文献1, p. 416
- 3) Pražský projektový ústav, Generel výtvarného řešení Jižního Města v Praze, 1976. (in Czech)
- 4) 参考文献3, p. 1.
- 5) 参考文献3, pp. 7-9.
- 6) 参考文献3, pp. 11-12.
- 7) 参考文献3, p. 15.
- 8) 参考文献3, pp. 18-19.
- 9) 参考文献1, p. 13.